

CAPAソウル大会プログラム案 (2015年6月末時点)

時間	タイトルと概要	主な登壇予定者
2015年10月27日 (火)		
18:00 ~	ウェルカムレセプション	
19:00 ~	(日本公認会計士協会主催ジャパンナイト)	
2015年10月28日 (水)		
8:30 ~ 9:20	開会式	
9:30 ~ 10:45	本会議 1	2030年 アジアの職業会計士 - 将来展望と、それが会計士にとって意味するもの
		アジアの金融界は、アジア地域が今後もグローバル経済を牽引していくことを引き続き確信している。アジア経済への期待が高まり続けるなか、同地域の会計士の役割や責任が注目を浴びるのは必定である。彼らは変動の激しい経済を抱える未曾有の課題を予測し、これに対応する準備をより十分に整えながら、チャンスに目を光らせ、そのチャンスをもものにしなければならない。本セッションでは、さまざまな分野や経歴のキーパーソンが、アジア経済のこれまでの浮き沈みと、会計士がこれにどう寄与したかを診断するとともに、全世界の会計士に影響を及ぼすことをめざして、今後10年間のアジアの経済および会計士の役割を予測する。
		進行役: Sujewa Mudalige氏 (CAPA 会長) パネリスト: 1. Olivia Kirtley氏 (国際会計士連盟 (IFAC) 会長) 2. 森 公高氏 (日本公認会計士協会 会長) 3. Shuping Feng氏 (中国公認会計士協会 会長) 4. Sung-won Kang氏 (韓国公認会計士協会 会長)
10:45 ~ 11:15	休憩	
11:15 ~ 12:30	分科会 1	統合報告 - これは「万能薬」か?
		統合報告は、従来の財務報告モデルを土台に、企業が長期的に価値をどう創造・維持するかをステークホルダーが知るための非財務情報をも含めたものである。統合報告を採り入れている企業は、それが未来志向の思考や事業運営を可能にしたと評価する。しかし、より信頼性の高い情報の提供など、多くの面でなお改善の余地はある。本セッションでは、財務情報にとどまらない企業報告のあり方をさらに改善するため、会計士がいま何をしており、そしてこれからどうあるべきかについて、パネリストが意見を交換する。
		進行役: Paul Druckman氏 (国際統合報告評議会 (IIRC) 専務理事) パネリスト: 手塚 正彦氏 (有限責任監査法人トーマツ 執行役・インダストリー担当)、ほか
	分科会 2	アジアの企業内会計士 - 今日のCFOの役割
		開業している会計士の仕事は当然のことながらよく知られているが、企業内職業会計士 (PAIB) が果たす役割はあまり理解されていない。それぞれが属する組織が効果的、倫理的かつ責任ある統制・実行を確保するうえで、彼らPAIBも同様に重要な役割を果たしている。本セッションでは、PAIBのプロフェッショナリズムを維持・強化することがいかに大切かを解説する。それは職業会計士の評判や信頼に直接かかわり、財務報告サプライチェーンの確固とした基礎を築く土台である。
	分科会 3	技術の変化 - 今後の動向と、会計士への影響
		世界は「デジタルダーウィニズム」と呼ばれる時代に入った。技術の進化があまりにも速く、多くの人や組織がその変化に適應できない時代である。職業会計士は、サイバーセキュリティ、ビッグデータ、クラウドコンピューティング、モバイルおよびソーシャルプラットフォームがもたらす変化を受け入れなければならない。社会や企業のニーズの変化を予測しなければならぬ。本セッションでは、職業会計士がIT専門家やソリューションプロバイダーと協力して技術進化にどう対応すべきかを検討する。
12:30 ~ 14:00	昼食	
14:00 ~ 15:15	本会議 2	財務報告の基盤 - 土台は盤石か?
		会計の世界がグローバル化し、絶えず変化するなか、資本市場を構成する各要素を幅広く理解してこれに対応することで補完しながら、職業会計士はその専門知識や能力を高めなければならない。本セッションでは、財務報告および財務報告サプライチェーンにかかわる人々に関して、より総合的な視点を提供する。
15:15 ~ 15:45	休憩	
15:45 ~ 17:00	分科会 4	アジアのコーポレートガバナンス - 目的にかなっているか?
		金融危機をきっかけに様々な法規制や各種の基準が設定され、法執行も強化された。OECDコーポレートガバナンス原則は2015年に改訂され、全世界の政策立案者、投資家、企業、その他さまざまなステークホルダーにとっての国際的ベンチマークになる予定である。本セッションでは、コーポレートガバナンスの観点からアジアのビジネス慣行を振り返るとともに、将来を展望したうえで、今後数年間について意欲的なプランを策定する。また、パネリストたちは有効なコーポレートガバナンスの「門番」である監査委員会をうまく機能させるためのポイントについて論じるとともに、外部監査人の独立性や客観性を担保するうえで監査委員会が果たすべき極めて重要な役割を強調する。
		進行役: Wui San Kwok氏 (国際会計士倫理基準審議会 (IESBA) 副議長) パネリスト: 1. 加藤 厚氏 (IESBA ボードメンバー、元企業会計基準委員会 (ASBJ) 副委員長) 2. Jackie Poirier氏 (CAPA 副会長)、ほか
	分科会 5	アジアの価値と職業倫理 - ビジネス倫理の向上に会計士が果たす役割
		世界的な会計環境の変化を受けて、職業会計士のための国際倫理規定が更新・改訂されている。自主規制としての職業倫理は人々の信頼を勝ち取るために欠かせない重要なものであり、その役割はどれだけ強調しても足りないほどである。しかし、硬直的・階層的なアジアの文化を考えると、その基準の実行は決して容易ではない。本セッションでは、職業会計士がその職務改善のために倫理的な判断を下し、最終的に公益に資するようになるためのサポートのあり方を検討する。
	分科会 6	現在の規制枠組み - 規制当局者からの視点 (韓国語セッション)

時間		タイトルと概要	主な登壇予定者
		調整中	
2015年10月29日(木)			
8:30-9:20		特別会議	
9:30-10:45	本会議 3	財務報告への信頼 - 一般市民や投資家は正しい情報、信頼できる情報を受け取っているか？	
		金融危機以降、監査人が世間の注目を集めているが、人々からの信用・信頼はむしろそれ以前から低下していたと指摘する向きもある。いまこそ職業会計士は、民間部門か公的部門かにかかわらず、厳格な基準の再構築や信頼できる適正な情報の提供を通じて、信頼を取り戻すことに注力しなければならない。本セッションでは各パネリストが自らの経験もふまえて、どのようにして人々の信頼を高め、回復すればよいか、そして持続可能な経済の土台となる財政的安定を取り戻せばよいかを議論する。	進行役: Arnold Schilder氏(国際監査・保証基準審議会 (IAASB) 議長) パネリスト: 1. Nik Hasyudeen氏(マレーシア証券員会 執行役員) 2. 関根 愛子氏(日本公認会計士協会 副会長)、ほか
10:45-11:15		休憩	
11:15-12:30	分科会 7	競争激化にさらされる監査人 - 何が監査の質を高めるか？	
		監査人は厳しい競争に直面し、業務報酬の引き下げ圧力を受けている。一般に競争はサービスの質を高めるとされるが、この考え方は監査人市場にも当てはまるのか？ 会計事務所へのランク付け、監査人指定制度など、監査業務の質の高さを保証するための試みがいくつか進められてきた。いずれも基本的には監査人の独立性を守るねらいがある。本セッションでは監査の質を確保するため、現在の直接の接触に基づく 監査人選定に変わる方法を検討する。	
	分科会 8	監査の新しい基準 - 質の高い基準をいかに適用するか？	
		多くの国々で、単一の国際監査基準 (ISA) への移行が優先事項とされてきた。この新しいISAへの流れはいまなお続いている。しかし、監査顧客の特徴によって適用アプローチが異なるとして、とくに中小会計事務所 (SMP) の場合、ISAの適用可能性を問題にする人々もいる。本セッションでは、ISAの適用可能性を高め、新たに策定された基準の導入を促す監査戦略の設計について検討する。	進行役: In-ki Joo氏 (IFAC ボードメンバー) パネリスト: 1. Arnold Schilder氏 (IAASB 議長) 2. 関川 正氏 (日本公認会計士協会 主任研究員)、ほか
	分科会 9	国際財務報告基準 (IFRS) - 世界的な普及に必要な変更点は何か？	
		資本市場は、投資家、企業、会計士、監査人をはじめとするさまざまなステークホルダーの手によってつくられる。どのステークホルダーも、財務報告と会計基準の世界的な取組の成功に向けて積極関与することで恩恵を受ける立場にある。その成功はグローバルな資本市場の将来にとって、戦略的にきわめて重要な問題だからである。各パネリストは、IFRS取組の現状、原則主義に基づく会計基準の適用・実行プロセスに起因する課題、そしてIFRSの共通の解釈を導き、各国の異なる状況下でこれを実行した際の諸問題に対応するために何ができるかを論じる。	進行役: Jung-woo Seo氏 (国際会計審議会 (IASB) ボードメンバー) パネリスト: 関口 智和氏 (企業会計基準審議会 (ASBJ) 常動委員)、ほか
12:30-14:00		昼食	
14:00-15:15	分科会 1 0	中小規模事務所 (SMP) - 新たなビジネスエンジンの創出	
		グローバル化の加速に伴い、SMP (中小会計事務所) とSME (中小企業) は厳しい状況に追い込まれている。将来が見通せないことも、彼らにとってマイナスとならざるを得ない。このような切迫した状況下、SMPとSMEの持続可能な成長を可能にする新しいビジネスモデルをどのように生み出せばよいかについて、さまざまな関係者が革新的なアイデアを交換する。	
	分科会 1 1	公的部門の改革 - 変わりゆく会計・監査	
		金融市場が不透明かつ不安定な環境にあるなか、公的部門の透明性確保がその重要性を増している。そのためには職業会計士の同部門への関与拡大が求められる。各スピーカーは公的部門への会計士の関与の重要性を説くとともに、模範となる事例を紹介する。職業会計士がこうした要求の高まりに対してどう準備しており、社会や人々の持続可能な幸福に貢献するかを知る絶好の機会である。	
	分科会 1 2	複雑に絡み合うインターネットの世界 - 税の抜け道をふさぐ	
		昨今の利益移転に対する非難を受けて、多くの国が多国籍企業による税源浸食と利益移転への対応に本腰を入れている。それぞれの国の政府レベルにとどまらず、OECDも、OECD/G20「税源浸食と利益移転プロジェクト」の下、国際協調アプローチに関する第1次提言を発表するなどして、脱税や租税回避の問題に対処している。本セッションでは、利益移転の倫理、会計士の役割、そして会計士が直面する課題と機会、なかでも国境を越えて進化するITと機動性の世界における課題と機会について検討する。	進行役: Gabe Hayos氏 (カナダ財務部門長) パネリスト: 須藤 一郎氏 (日本公認会計士協会 租税調査会委員長、EY税理士法人パートナー)、ほか
15:15-15:45		休憩	
15:45-16:45		閉会式	